

第十章 丸善異色篇

一 ショーウィンドウ

明治三十年代末、丸善本店の近くの青物町に一人の少年がいた。幼い時から絵を好み、将来その方面で身を立てたいと考えていた。丁度そのころ、丸善では内田魯庵が「学鐙」によって、他に類例のないPR誌をつくっていた。そして武者小路実篤が「白樺」の運動を起すかたわら、丸善を通じて盛んに洋画家の伝記や画集を購入していた。丸善もこれに刺激され、欧州の美術書を輸入した。

今、大正五年から昭和五年に至る十五年間に、どんな洋画関係の書籍が輸入されたかを「学鐙」所載の一頁乃至半頁の絵入広告から拾ってみると、左の第一表のように総計九四四種に達する。勿論この中には重複するものもあるが、その多くは一般によく知られた画家の履歴、または画業に関するもので、このうち画家のベストテンをとると第二表のようになる。因に表中、Tは大正、Sは昭和の年号を、末端の数字は同年間に広告された件数を示す。

第一表 書名及び広告件数

T 5)	Catalogue of Drawing by Dutch & Flemish Artists.	Eduard Manet.	Degas.
	Persönliche Erinnerungen an Vincent van Gogh.	Rembrandt.	Les Grands

	Artistes Rubens.	Boticelli.	Delacroix.	Durer.	Van Dyck.	37
T 6)	Michael Angelo.	Rubens.	Turner.	Velasquez.	Paintings & Drawings by	
	Francisco Goya.	Tiziano.	Rodin.	August Renoir.	Rubens.	25
T 8)	Fra Angelico.	Giovanni Segantini.	Paul Cezanne.			51
T 9)	Millet.	Raphael.	Corot.	Paul Gauguin.		51
T 10)	Der Expressionismus.	Hans Holbein.	William Blake.	Courbet.	Lautrec.	72
T 11)	Tiziano.	Puvis de Chavannes.	Meunier.	Chagall.	Zadkine.	Die Kunst
	Henri Matisse.					122
T 12)	Die Kunst des Greco.					57
T 13)	Picasso.	Rossetti.	Tintoretto.			58
T 14)	Claude Monet.	Van Dyck.				58
T 15)	Sterne.	Andre Derain.	Hans Thoma.			73
S 2)	Die Kunst des 20 Jahrhunderts.	Die Kunst des Klassizismus und der Romantik.				
	Old French Colour Prints.	Landmarks in Nineteenth Century Painting.				
	Evolution in Modern Art.					109
S 3)	Die schöne Frau.	Der Nachte Mensch.	Die niederländische Maler.	L'Art		

D'Aujour d'hui. Die Kunst des Realismus und des Impressionismus. Handbuch
der Kunstgeschichte. 140

- S 4) Foujita. Modern French Painters. Famous Etching from Durer to Whistler. 68
S 5) Great Pictures by Great Painters. The Painter in History. 23

第二表 掲載画家ベストテン()は回数

- | | | | | | | | | |
|------|----------------|------------|-------|----------------|-------------|------------|------------------|---------|
| 1位 | Rembrandt (42) | 二位 | Rodin | Gogh (31) | 四位 | Manet (27) | 五位 | Cezanne |
| (24) | 六位 | Goya (19) | 十位 | Michael Angelo | Renoir (16) | 九位 | Leonald da Vinci | |
| (14) | 十位 | Degas (12) | | | | | | |

八木本の図書館長の話によると、内田魯庵は、「学鑑」への絵画関係広告は、喜んで迎えたという。

さて少年は、計らずも丸善に沢山の洋画本があるのを知り、恐る恐る店内に足を踏み入れ、そこに陳列されている洋画の豪華本に魅せられ、喰入るようにみつめるのであった。それがいつしか少年のならわしとなり、こよなき愉びともなった。そして目出度く、城東小学校を卒業すると直ちに採用試験に応募し、首尾よく見習生として入社することが出来た。勿論三年間の見習生時代は雑用に従い、時には大学などへ新刊書籍を配達して廻り、夜間は神田の正則英語学校に通って英語を勉強した。しかし画業で身を立てんとする初志は変らず、特に図案を好み、藏前商工図案選科に入学を希望したが、学歴不足でかなわなかった。そこで秘かに白馬会に入会し洋画を勉強し、ついに二科展に入選して小柳津要人からいたく賞讃された。彼はもう少年ではなかった。前途を嘱望された有能青年社

員大浦周蔵に成長し、丸善の商業美術の一部を担当し、また社外では新しい美術運動であるマヴォで活躍した。

マヴォについては、岡田隆彦が雑誌「SD（スペース・デザイン）」に、「（大正十二年）七月末にドイツから構成主義をたずさえて帰朝したばかりの村山知義が中心となり尾形亀之助、穴明共三、大浦周蔵、ブブノフなどによって結成され」五人の頭文字をとってMAVOと名づけたと記している（一一三頁）。当時三越の装飾図案は杉浦非水が担当し、新機軸を出して好評を博していたが、大浦はこれに対抗して丸善のデザインを案出し大いに活躍した。これについて仲田定之助は、「新文明」第二十卷第二号（昭和四十五年二月号）に、次のような思い出の記を書いている。

その頃わたしの幼い頃から顔見知りであった小店員が二人あった。その一人は大浦周蔵といった。彼は画技に長じ、夕方勤務から解放されると、溜池の白馬会研究所に通った。大正時代、丸善のショーウィンドウデコレーションの斬新で、衆目を集めて好評を博した。それはすべて近着の美術書を参考として彼が創作するディスプレイだった。大浦はまたマボウ、三科など前衛運動にも参加して、活躍していたが惜しいことに夭折して終った。

と。昼は社業に従い、夜は好みの画業に、彩管をふるった彼も偉かったが、その才幹を認めて、「店の顔」とも云うべき、ショーウィンドウを与え、縦横に彼の才能を駆馳せしめた、丸善幹部の英断をも併せて賞め称えるべきであろう。しかし彼は業半ばにいたらずして昭和三年三月二十八日三十九歳を以って他界し、ついに既刊の社史に名を連ねることなく消え去った。

二 児童圖書の出版

丸善の神田支店に、伊村金之助という人がいた。この人は、丸善創業の際早矢仕有的を助けた伊村新一の養子（旧姓野呂）で明治十八年八月二十五日に中西屋に入社した。明治六年生れだから、数え年十三歳で小僧として雇われ、中西屋が丸善に買収されてからも、引きつづいて丸善の社員になり、昭和十年十一月に歿している。伊村は本屋の一店員として兀々（こつこつ）と書籍販売業務に携っているうちに、根っからの愛書癖が上司の認めるところとなり、壮年時代に入ってから、児童書の編集出版を委されるようになった。児童出版物の研究家である南部亘国の話によると、大正の初期には、中西屋の二階の奥に編集室があり、そこに伊村を再三訪れて資料蒐集のため力を借りたことがあったという。伊村は、その編集にあたっては巖谷小波や鹿島鳴秋など、当時一流の作者の作品のみを選び、挿



神田支店の広告

画も著名な画家に依頼して、豪華な装幀本を発行した。対象とした購買層が、中流以上の階級であったことは確かで、それだけに値段も安くはなかったという。

中西屋及神田支店が大正・昭和に出版した児童圖書のうちでわかつているものを掲げて見ると次のようなものがある。

伊村はまた小学新報社発行の月刊雑誌「幼女号」「少女号」「小学画報」の出版にも関係し、大正九年度出版の「幼女号」の奥付

には編集者としての彼の名が載せられているが、これは誤りで南部氏の説によると、これら月刊雑誌の編集者は鹿島鳴秋で、伊村はその経営者であったという。

中西屋・丸善発行児童図書

書名	著者	挿画	装幀	定価	発行年月
ナカニシヤ 日本一ノ画噺 全三十五冊 いろはスケッチ 子供四十八景	巖谷小波	岡野栄他	杉浦非水	各・二〇 円	明四十四、 大元・八
お伽図書館	巖谷小波	岡野栄	麦藁張	一・〇〇	大元・十
コドモノ画	鹿島鳴秋	太田三郎		・七〇	大元・十
大正お伽噺	山口伊策編	太田三郎		・五〇	大元・十一
家庭読本 孝子画噺 上・下	鹿島鳴秋	倉田白羊		・七〇	大元・十一
孝子画噺 （養老の巻 白菊の巻）	内海月杖	細木原静岐等		・五五	大元・
オハナシ 全五冊	鹿島鳴秋	倉田白羊		各・九〇	大元・十二
軍国おとぎ噺	小柴博	細木原静岐		・五五	大元・十二
東西お伽話 天・地	日比省吾編	細木原静岐		合本・九五	大元・五
家庭日本歴史	内海月杖	細木原静岐		大元・十二	大元・十二

お伽十五夜物語	鹿島鳴秋	太田三郎	紙芝居式窓付	一・十五	大六・十一
子供ハ克蘭会	鍋井克之				大八・七
大正お伽噺	鹿島鳴秋	太田三郎			大十一・
日本童話選集 全六冊	童話作家協会編	岡本・武井・村山他		三・七五	大五・三
未明童話集 全五冊	小川未明	初山・村山・武井・川上		各三・〇〇	昭二・一
お伽漫画第一輯	保積稻夫				昭二・九
素戔鳴命	藤沢衛彦			一・八〇	昭二・十二
孝子画噺 上巻 兄妹の巻					
キャベツのお家	鹿島鳴秋	布目敏行			昭二・
おもちゃ箱	武井武雄	武井武雄		一・三〇	昭二・
動物の村	武井武雄	武井武雄			昭二・
小公女	バーネット夫人作 久保田万太郎訳				昭二・
あるき太郎	武井武雄	武井武雄		一・三〇	不明
竹取物語	保積稻夫				不明
小公子物語	バーネット夫人作 鹿島鳴秋訳				不明
家庭読本 日本国史	内海月杖				不明
オトギウタエ 全三冊	巖谷小波	太田・細木原・岡野		各・八〇	不明
お伽手工画噺 全五巻	巖谷小波			各・六〇	不明



中西屋発行のお伽噺の本（南部亘国氏蔵）

ところで已に米国で始まっていた世界的経済恐慌の徴候は、カナダにおける製紙用パルプの投売を招き、これがわが国の出版界にも大きな影響を与えた結果、本の安売り時代がはじまった。特に文学書や、児童書の廉価本が現われ、

明治大正文学大全集	一冊	一円
現代大衆文学全集	一冊	一円
世界文学全集	一冊	一円
日本児童文庫	二冊	一円
小学生全集	一冊	三五銭

と云う安い価格で発売された。

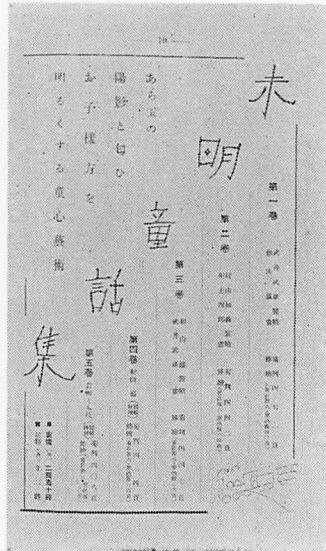
レクラム文庫に範を採った岩波文庫が、星一つにつき二〇銭と云う最低価格で市場に売り出されたのは、昭和二年の七月であった。

——岩波文庫発刊に際して——と云う題名で、

店主岩波茂雄が書いた趣意書を見ると、「十数年以前より志して来た計画を」「その性質上経済にも最も困難多き」うちに敢て発刊したのは、「知識と美とを特権階級の独占より奪ひ返すことはつねに進取的なる民衆の切実なる要求である」と考えたからであると云っているが、これが出来たのも当時の出版原価が安すぎたがためであった。

そうしたなかで「日本童話選集」第一輯は、大正十五年末に発刊され、童話作家協会三十余名の傑作を収め、「現代日本童話の最高水準を示すものとして」全六冊の年刊発売を約束している。しかも円本流行のきざしが見え初めたころ、定価三円七五銭の高価で提供したのは、当時一流の作家達に加えて、岡本帰一、川上四郎、村山知義、武井武雄、初山滋等錚々たる画家を配したからでもあろうが、それだけに丸善出版部の首脳は、高い誇りと自信とを持っていたのである。小川未明著「未明童話集」の第一巻は、昭和二年四月発売され、定価二円五〇銭で昭和六年に五冊で完結している。この完成の年は、宛も彼が五十歳に達した時であったから、誕辰五十年と未明童話集完結祝賀会が同時に行われ、同労者鈴木三重吉が次のように祝賀の言葉を述べた。

未明君の童話の全集に近いやうなものが纏められたが、その中には世界的にも誇り得るやうな数々の作品を含んでゐる。童話を作るといふことは難しいことであつて私始め多くの人達が童話を書くが大抵は再話であつても、未明君のやうに永年に亘つて初めから今に到るまで努力してゐる者はないといつていい。これは日本人の全部が未明君に感謝しなければならぬ併しかういふ偉大な功績でも世の中の人々は看過してしまふのは残念である。或る種の文学者と違つて物質的に酬いられることの少ないのは氣の毒だ。自分が貧乏故に一層同情されるのである。人間といふものは生きてゐるうちに尊敬されるものでない。物質的には尚更に酬いられるもので



未明童話集（学燈広告）

作品を書くようになり、労働文学雑誌「黒煙」を創刊したり、日本社会主義同盟の発起人になったりして、活発に社会主義運動に従ったが、のち転心して児童文学に専念した作家であった。その珠玉の名品は、一部の人たちに高く評価されており、これに目をつけてその上梓に骨を折ったのが内田魯庵である。

ない。未明君は幸ひにして子供の時にはアンデルゼンのやうに着るものも喰べるものもなかつたといふことがなかつただけでもいい、そしてたゞ非常に健康でいつも変らぬ元氣であることは幸福だと思ふ。今後も尚ほ一層の元氣を見せて呉れることを望んでゐる。（学燈 昭和六年十二月号所載）

小川未明は初め「近代思想」に接触して社会主義的な